

●2008年  
2月10日(日)  
AM / (PM)

分科会の名称  
教えない環境教育 ここにあります

●場所 第4研修室  
●参加者 20人

●実施者  
森川千鶴さん、竹内成光さん  
吉野了嗣さん

# 教えない環境教育 ここに 있습니다

Q. 教えない環境教育ってなに？

自己紹介を兼ねた  
この分科会を  
選んだわけは？

タイクに  
鬼かわれて  
発見

出合ったこと  
ない講師の方

今自分が  
やりたいこと

環境教育とは？  
理由？  
テーマの  
魅力

答えが  
ほしい

知らない手法を  
知りたい

教えるではなく  
気づかせる

教えない？  
なぜ？

効果の  
測定方法は？

自分の活動の  
参考に

沢山の人の  
交流

テーマに  
興味!

教えないの  
内容は？

報道されない  
現場の様子

## 2. ゲストの方々の 活動紹介

全国子ども  
ワークショップフォーラム  
森川さん

全国教育系ワークショップフォーラム  
(2006年)  
→全国子どもワークショップフォーラム  
全国フォーラム@鳥根

2007: フリカエリフォーラム

2008: はちおうじ 里山留学

平尾谷の四季の丘小学校  
活動紹介 by 吉野

あたりまえのように  
森に入る by 竹内さん

日常の中であたりまえのように森に入り  
ことか「ゴニセフ」  
26年間、ノンプログラムのもんぽを実施  
(現在進行形、ゴニセフ)  
キャンプではこんなことしてはすの、実際と思  
みんなで  
輪になって...

### 3. ゲスト同士の セッション

なぜ環境教育が  
必要なのか

今は地球が際限の  
見えてきた時代

人のまわりにあること  
こそが環境

教えるべき環境教育とは？

環境教育は「生きていくこと」そのものである。

子どもたちの「自由」をどう考えるか。

自由を支援していくことが必要

手づくり・手仕事の意義とは？

からくりの見える生活(その生活の価値の高さ)

小さなや原体験々をしていく(重ねていく)こと

子どもの自立をどう考えるか。

現代の生活は、プロセスのわからないもので溢れている。今、置かれている環境は正に「ブラックボックス」

子どもの心に置き火をつくる。

### 4. ゲスト 参加者 フリートーク

- 身近なきっかけを与えるのが環境教育
- 「こうでなければ」とらわれるのは危険
- 子どもたちが学びたい→提供する。
- 「からくりのわかる生活」で変わる子もいる
- 思いやりまで「やれる場」の提供
- 隙間がどんどんなくなっている。
- 子どもを「教える対象」としてしか扱っていない？
- 子どもから学ぶ、という視点。
- 問題解決型の教育でありたい
- つながりを感じるために必要なのが環境教育
- 環境教育という言葉すら要らないのでは？
- 持続可能な社会って？
- 体験活動が日常化すれば...

レポート: ちほりん(岡田千穂)